

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4034711号

(P4034711)

(45) 発行日 平成20年1月16日(2008.1.16)

(24) 登録日 平成19年11月2日(2007.11.2)

(51) Int.Cl.

A 4 7 J 43/10 (2006.01)

F I

A 4 7 J 43/10

請求項の数 13 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2003-296268 (P2003-296268)	(73) 特許権者	503270869
(22) 出願日	平成15年8月20日(2003.8.20)		マックスパット・トレーディング・アンド
(65) 公開番号	特開2004-230150 (P2004-230150A)		・マーケティング・(ファー・イースト)
(43) 公開日	平成16年8月19日(2004.8.19)		・リミテッド
審査請求日	平成18年1月11日(2006.1.11)		Maxpat Trading & Ma
(31) 優先権主張番号	0302180-5		rket ing (Far East)
(32) 優先日	平成15年1月30日(2003.1.30)		Ltd.
(33) 優先権主張国	英国(GB)		香港カウルーン、ツィムシャツイ、カント
			ン・ロード7番、ハーバー・シティ、ニュ
			ー・ティ・アンド・ティ・センター、ルー
			ム609-616
		(74) 代理人	100084146
			弁理士 山崎 宏
		(74) 代理人	100100170
			弁理士 前田 厚司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 調理用具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細長い柄（２）を含む料理用泡立て器（１，３０）であって、
 さらに、概して平面状の実効部（４，３２）を含み、
 前記実行部（４，３２）は、概して平面状の針金の環（１４）を含み、横材（１２）が
 設けられ、前記横材（１２）において前記柄（２）に接続され、
 前記実行部（４，３２）は、前記柄（２）の軸に垂直な軸周りに旋回動作可能であるこ
 とを特徴とする調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項 2】

前記実効部（４，３２）は、複数の針金（１４，１８）を含むことを特徴とする請求項 10
 1 に記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項 3】

前記実効部（４，３２）は、前記針金の環（１４）の周りに伸びる相対的に細い針金の
 コイル（１８）とを含むことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の調理用泡立て器（１
 ，３０）。

【請求項 4】

前記針金のコイル（１８）は、前記環（１４）の周りでの前記コイル（１８）の限定さ
 れた動きを可能にするために、前記針金の環（１４）の周りにゆるく巻きつけられている
 ことを特徴とする請求項 3 に記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項 5】

前記軸旋回可能な接続は、前記横材（１２）において行われていることを特徴とする請求項３または４に記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項６】

前記柄（２）は、前記柄（２）から伸びた１対の脚部（８）で前記針金の環（１４）に接合されていることを特徴とする請求項３から５のいずれかに記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項７】

前記脚部（８）は、前記横材（１２）の周りに折り曲げられた折返し端部（１０）を含むことを特徴とする請求項６に記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項８】

前記横材（１２）には、前記脚部（８）に対して前記針金の環（１４）が横方向に動くことを防止する突起（１６）が設けられていることを特徴とする請求項７に記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項９】

前記針金の環（１４）は、少なくとも１つの尖部（２０）を有する形状であることを特徴とする請求項３から８のいずれかに記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項１０】

前記針金の環（１４）はハート形であることを特徴とする請求項３から９のいずれかに記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項１１】

前記針金の環（１４）は楕円形であることを特徴とする請求項３から９のいずれかに記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項１２】

前記針金の環（１４）は三角形であることを特徴とする請求項３から９のいずれかに記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【請求項１３】

前記横材は、前記実行部（４，３２）の面と平行に延伸することを特徴とする請求項１から１２のいずれかに記載の調理用泡立て器（１，３０）。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、調理用具、特に調理用泡立て器に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来の調理用泡立て器は、多様な形状を取ることができ、最も一般的形状は、公知の風船型泡立て器である。そのような泡立て器は、通常、柄および実効部からなり、実効部は、概して風船のような形をなすように柄の軸周りに角度的に間隔を置いて配置された複数の金属線の環で形成されている。この型の調理用泡立て器のひとつの欠点は、それが相対的に大きいものであって、それらの環の下部がしばしば食品を入れた容器の隅に効果的に届くことができないために、それによる食品の混合や泡立てがしばしば満足ではないことである。他の欠点は、使用後に、柄に固定された針金の環をきれいにすることが難しいことである。さらに別の欠点は、針金の風船の形が例えば引出しの中で大きな収納スペースを占領することである。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

本発明は、これらの問題を扱う台所用品を提供するもので、少なくとも公衆に対して代替品を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【０００４】

10

20

30

40

50

本発明の第1の態様によると、細長い柄と、前記柄の軸に垂直な軸周りに旋回動作可能に前記柄に接続された概して平面状の実効部とを備えた調理用泡立て器が提供される。

【0005】

好ましくは、前記実効部は、複数の針金を含んでもよい。前記実効部は、概して平面状の針金の環と、前記針金の環の周りに伸びる相対的に細い針金のコイルとを含んでもよい。前記針金のコイルは、前記環の周りでの前記コイルの限定された動きを可能にするために、前記針金の環の周りにゆるく巻きつけられてもよい。

【0006】

前記針金の環には、前記環を軸旋回可能に前記柄に接続するための横材を設けてもよい。前記柄は、前記柄から伸びた1対の脚部で前記針金の環に接合されてもよい。特に、前記脚部は、前記横材の周りに折り曲げられた折返し端部を有してもよい。

10

【0007】

前記横材には、前記脚部に対して針金の環が横方向に動くことを防止する突起が設けられていてもよい。

【0008】

前記針金の環は、自在継手のような他の手法で前記柄に接続されてもよい。

【0009】

前記横材および針金の環の台座(rest)は、前記針金の環を前記柄に接続するために、異なる平面上に配置されてもよい。代わりに、前記横材および針金の環の台座は、同じ平面上に配置されてもよい。

20

【0010】

前記針金の環は、少なくとも1つの尖部を有する形状であってもよい。好ましくは、前記針金の環はハート形であってもよい。前記針金の環はまた楕円形であってもよい。前記針金の環はまた三角形であってもよい。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

本発明のいくつかの実施形態は、以下において添付図面を参照して例示として説明されるであろう。

【0012】

図を参照すると、図1から図4は、本発明による調理用泡立て器の第1実施形態を示す。符号1で全体を示した調理用泡立て器は、円筒形の柄2および実効部4を含む。柄2には、上端に吊り下げフック6が設けられている。1対の脚部8はその下端から伸びている。柄2は実効部4に脚部8を介して接続されている。実効部4は、それによって泡立てる際に食品が効率的に含気するように、使用時に広い面積で食品と効果的に接するのに役立つ複数の針金の配置を含む。好ましい実施形態には、棒状の横材12を有する堅い針金の主要な環14が存在する。脚部8はそれぞれにその下端に、柄2の軸に対して概して垂直に伸びた横材12を取り巻いて曲がった指部10（折返し端部）を有する。これにより泡立て器1の実効部4は横材12の軸周りに旋回運動する。突起16は、泡立て器1の実効部4と柄2との相対的な横方向の位置を制限するために、曲がった指部10に隣接して横材12上に設けられている。実効部4には、環14の周りに螺旋を描き、少なくとも環14の大部分に沿って、細い針金18のコイルが設けられている。針金18のコイルは、弾力を有するように十分に細く、針金の環に対してわずかに動くことができるようにゆるく組み立てられている。この実施形態に示されるように、実効部4の環14は、1つの尖部20および2つのまるい湾曲部22を有する概してハート形である。

30

40

【0013】

明確にするため、図3および4は、環14に沿って螺旋を描く針金18の長尺物を外した調理用泡立て器1を示す。図に示すように横材12は、環14の上側に接合するように溶接されて配置されている。

【0014】

図1は、尖部20が上に向いた構成の実効部4を有する調理用泡立て器1を示す。図2

50

は、代わりに、尖った部分 20 および湾曲部 22 がともにおよそ同じ水平高さである平らな構成の実効部 4 を有する調理用泡立て器 1 を示す。これら 2 つの図が示すように、泡立て器 1 の実効部 4 は環 14 に取り付けられた横材 12 の軸周りに旋回することができる。これは、実効部の面がボウルの側面にならうことができるので、ボウルの中の食品を泡立てまたは打ち混ぜる際に特に有用である。

【0015】

実効部の尖部 20 の構成および旋回可能であることは、大皿鉢または他の容器の狭い隅に届くことを容易にする。

【0016】

図 5 から 7 は、調理用泡立て器 30 の第 2 実施形態を示す。調理用泡立て器 30 は、実効部 32、厳密には針金の環が楕円形であることを除いて、調理用泡立て器 1 とおおむね同じである。

10

【0017】

例えば、三角形の実効部が使用できるように、実効部の広く多様な他の形状および構造が使用できることが認識されるであろう。狭い隅に届くように細いまたは尖った形状の部分を有する形状が好ましい。また、実効部分の針金の環が閉じた環であってもよいが、開放部分を有する環であってもよいことも認識されるであろう。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図 1】本発明による第 1 実施形態の調理用泡立て器を示す斜視図である。

20

【図 2】図 1 に示された調理用泡立て器の異なる配置を示す別の斜視図である。

【図 3】針金の長尺物を取り外した、図 1 に示した調理用泡立て器の斜視図である。

【図 4】図 3 の調理用泡立て器の側面図である。

【図 5】本発明による第 2 実施形態の調理用泡立て器を示す斜視図である。

【図 6】図 5 に示した調理用泡立て器の異なる配置を示す別の斜視図である。

【図 7】針金の長尺物を取り外した、図 5 に示した調理用泡立て器の斜視図である。

【符号の説明】

【0019】

1 調理用泡立て器

2 柄

30

4 実効部

8 脚部

10 指部（折り返し端部）

12 横材

14 環

16 突起

18 針金

20 尖部

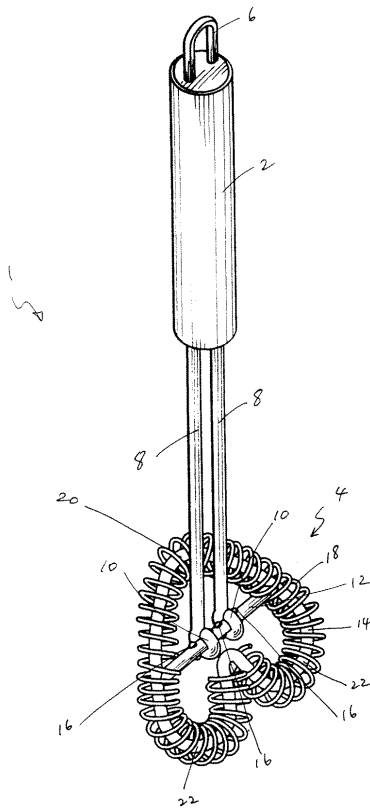
22 湾曲部

30 調理用泡立て器

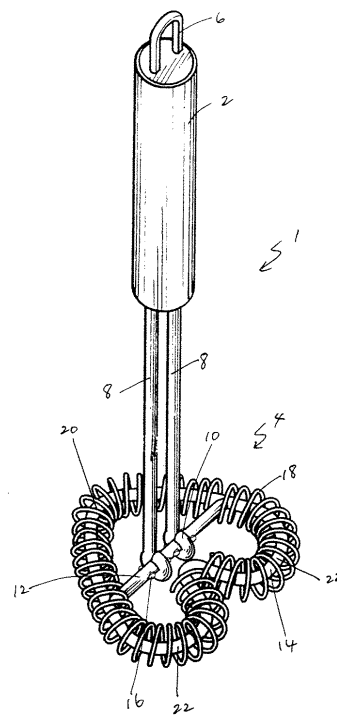
40

32 実効部

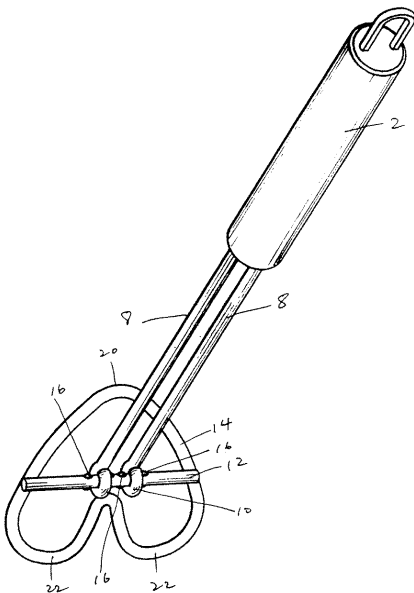
【図 1】



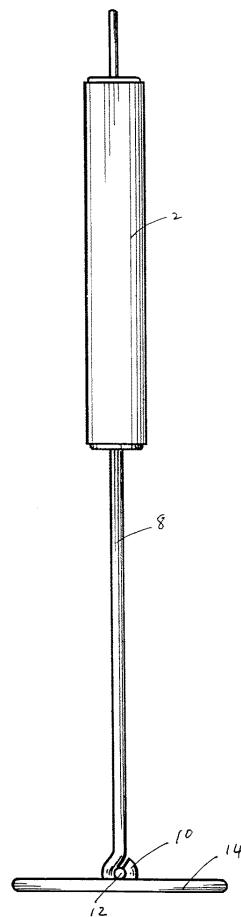
【図 2】



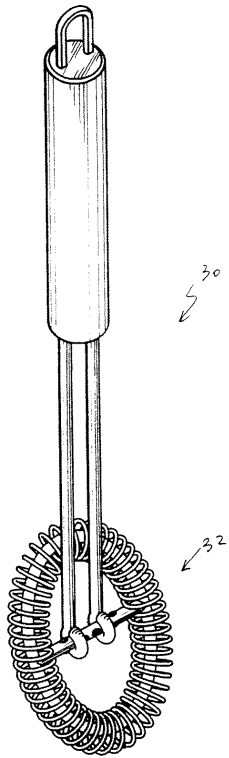
【図 3】



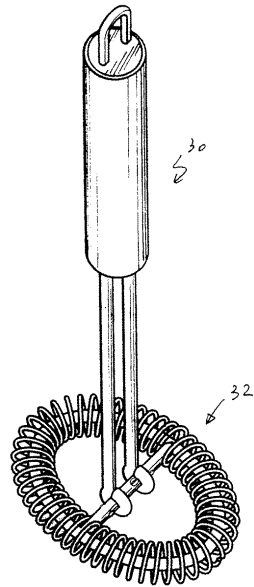
【図 4】



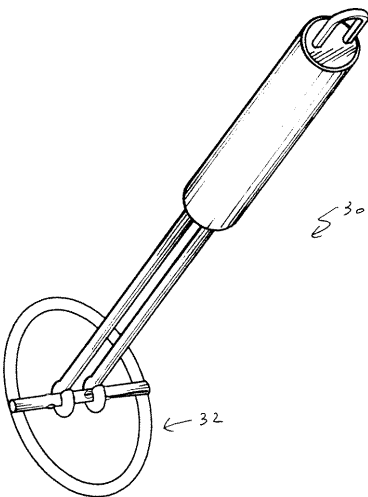
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(74)代理人 100105016

弁理士 加野 博

(72)発明者 チュン・ポ・ウ・ポール

香港ニュー・テリトリーズ、シティ・ワン・シャティン、ブロック6、17フロアー、フラット・
シー

審査官 川端 修

(56)参考文献 実開昭57-115340 (JP, U)

実公昭30-008382 (JP, Y1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47J 43/10